

# 国分川水系河川整備基本方針

平成29年4月

高 知 県

# 目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 .....	1
(1) 流域及び河川の概要 .....	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 .....	4
ア 災害の発生の防止又は軽減 .....	4
イ 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持 .....	5
ウ 河川環境の整備と保全 .....	5
2. 河川の整備の基本となるべき事項 .....	6
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 .....	6
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 .....	6
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項 .....	7
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項 .....	7

(参考図) 水系図

巻末

# 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

## (1) 流域及び河川の概要

### 【流域の概要】

国分川は、その源を高知県香美市土佐山田町平山の<sup>かみ とさやまだちようひらやま ほきがみね</sup>甫喜ヶ峰（標高 611m）に発し、<sup>りよう</sup>領石川、<sup>せきかわ かさのかわがわ</sup>笠ノ川等<sup>かちよう</sup>の支川を合わせながら香長平野を南西に流れた後、下流部において<sup>くまがわ えのくちがわ ふないれがわ うらどわん</sup>久万川、江ノ口川、舟入川等の支川と合流し、浦戸湾に注ぐ流域面積 152.8km<sup>2</sup>、流路延長 21.1km の二級河川である。

国分川流域は、高知県中部に位置し、高知市、<sup>なんこく</sup>南国市、香美市の 3 市からなり、流域の土地利用は、山地等が約 54%、水田や畑地等の農地が約 18%、宅地等の市街地が約 25% となっている。流域の人口は約 20.6 万人（平成 22 年現在）であり、特に下流域には高知市街地が形成され、高知県における社会・経済・文化の基盤をなしている。また、中流域を中心に高知県最大の穀倉地帯である香長平野が広がり、野菜を中心とする施設園芸や稲作が盛んである。更に、多様な魚類や野鳥の繁殖地となっている等、豊かな自然環境に恵まれている。

### 【気候・地形・地質状況】

国分川流域は、北で急峻な四国山地が冷たい北風を遮り、南で太平洋を流れる黒潮の影響を受けるため、冬季である 1 月の平均気温が 6℃前後と温暖な気候であり、降雪はまれである。また、降水量は夏期を中心に南からの湿った気流の影響を受け、非常に多くなる。特に国分川の上流域は年間降水量が約 3,100mm と、県下でも有数の多雨地帯となっている。一方秋から冬にかけては北西風の影響で降水量が少なくなる。

流域の地形は、上流域の源流部に広がる標高 600m 程度の小～中起伏山地のほか、北部が小起伏山地、東西は小起伏山地あるいは標高 100m 程度の丘陵地・台地と 3 方を高地で囲まれ、流域界をなしている。中流域には香長平野（沖積平野）が広がっている。また、下流域は、昔は海であり、河川の土砂流出及び藩政時代の干拓により概ね形成されたもので、そのほとんどが低平地となっている。

国分川流域の地質は、西南日本外帯秩父帯に属し、構成される地質は複雑で、北側は粘板岩・砂岩等の堆積岩類となっている。本川中下流域の平野部である南側は、扇状地堆積物からなる沖積層及び低湿地のデルタとなっており、砂礫層、粘土層を主とする堆

積物が見られる。

## 【社会環境】

国分川流域は高知市、南国市、香美市からなり、それら3市の自治体人口は約40.6万人（平成27年）である。また、流域の人口は約20.6万人であり、その大部分は下流の高知平野に集中している。

下流域の高知市は平成10年4月には中核市に移行しており、高知県の政治・経済・文化の中心地である。中流域に位置する南国市は、<sup>と き こ く が あ と</sup>土佐国衙跡等数多くの史跡があり、古くから文化が開かれているところである。上流域の香美市の国分川沿川は、高知県有数の農業地帯となっている。

このような社会環境のなか、市民による河川浄化や保護活動が推進される等、親しみのある川づくりが進められ、釣りや散策路の場として四季を通じ利用されている。下流域では漕艇の練習場として利用され、その近傍のヨシ原は野鳥観察の場所となっており、地域住民に親しまれている河川である。

## 【治水・利水の歴史】

国分川流域は、上流域が県下でも有数の多雨地帯であり、更に下流域のほとんどが低平地で海拔ゼロメートル以下の低地も多いことから、内水・高潮による氾濫を起こしやすい特性がある。このため、河川の流下能力不足と相まって、これまでたびたび大規模な浸水被害を受けてきた。

国分川の本格的な治水事業は、昭和26年から中小河川改修事業に着手したことに始まり、その後、昭和45年の台風10号による甚大な高潮災害を受けて、国分川、舟入川、久万川及びその支川群において高潮対策事業が進められてきた。また、昭和47年の集中豪雨による洪水では、国分川中流域で堤防の決壊による甚大な氾濫被害が起こったことから、基準地点葛島における計画高水流量を2,650m<sup>3</sup>/sに見直し、築堤及び河道の拡幅、掘削等の改修を進めてきた。

しかし、平成10年9月の集中豪雨（'98高知豪雨）による洪水で未曾有の浸水被害を受けたことから、国分川及び舟入川において、平成10年12月に河川激甚災害対策特別緊急事業に採択され、河床掘削と築堤による河川改修を平成16年度までに実施し、現在に至っている。更に近年、南海トラフ地震対策として、堤防の耐震化工事を進めている。

国分川流域を含む香長平野は古くからの穀倉地帯であるが、過去にはたびたび水不足をきたし、水の争奪が繰り返されていた。そのため、国分川のほかに水源を求めることとなり、吉野川水系穴内川<sup>あなないがわ</sup>から国分川への分水を行う<sup>ほまきがみねすい</sup>甫喜ヶ峰疎水が明治 33 年に完成した。この分水は明治 42 年から発電用水としても利用されており、分水を含めた国分川の水は、農業用水として約 1,400ha におよぶ農地で利用される等、地域の社会経済面で重要な役割を果たしている。

**【自然環境】** 国分川の多様な河川環境のもとに多くの種が生息・生育している。流域北部の山々から流れ出る大小の支川と合流し、緩やかに蛇行しながら、田園地帯の中を流れている中上流部は、その蛇行により寄州や瀬・淵が形成され、その寄州にツルヨシを主体とする植物群落が生育しており、キセキレイやカワセミ等の鳥類が山林から河岸へ、連続した植物帯を安全に移動し、水浴びや採餌を行う良好な場所となっている。また、瀬や淵を中心にオイカワをはじめとする多種類の魚類が生息している。

河岸沿いにはヨシ原が広がっており、一年を通じヨシ原特有の多様な野鳥が生息している。春～初夏にはオオヨシキリの繁殖地が形成されるとともに、夏にはツバメのねぐら、冬にはカモ類の休息場等となっている。また、干潟の周辺では小型の魚類等を採餌するダイサギ、アオサギ等の姿が見られる。植生ではヨシの他、水際部に生育する種であるタコノアシ等が見られる。久万川との合流点等の感潮域に堆積した砂泥底には、小規模ながらコアマモ群落が形成されており、ドロクイ、コトヒキ等をはじめとする感潮域特有の魚類の重要な生息場となっているほか、クロベンケイガニ等の底生生物の生息場所となっている。

国分川における環境基準の類型指定状況は、<sup>こやまばし</sup>小山橋から下流が河川 B 類型、上流が河川 AA 類型で指定されており、<sup>かづらしまばし</sup>葛島橋が環境基準地点になっている。

河川水質の指標となる BOD75%値の公共用水域水質調査結果について経年的に見ると、年々良好な傾向を示し、最近では環境基準値を概ね達成している。

河川利用としては、地域住民の日常生活の場として、また身近な親水空間として野鳥観察や散策地等にも利用されている。

## (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

当該水系における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、河川改修の状況、水害の発生状況、河川の利用状況、河川環境の保全並びに流域の将来像を考慮するとともに、地域住民に対して積極的に河川の情報を提供し、地域住民との関係をより密にし、国分川流域の総合的な整備と保全を図ることとする。

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する多様な機能を十分に発揮できるよう適切に行う。このために、流域内及び河川内の水理・水文等の情報を適切に収集しつつ、河道の侵食や堆積の状況等を把握のうえ、安定的な河道の維持に努める。また、河川の維持管理には、関係機関等との連携・協力が不可欠であることから、その体制づくりを推進する。

### ア 災害の発生の防止又は軽減

災害の発生の防止又は軽減に関しては、河床掘削等の河道整備を行うことにより、計画規模の洪水を安全に流下させる。また、河口部は高潮に対して安全な対策を行う。なお、災害の発生の防止又は軽減に関する河川整備を行う際には、国分川水系の河川環境保全に配慮するよう努める。

計画規模を上回る洪水や整備途上段階で施設能力以上の洪水が発生した場合においても、被害をできるだけ軽減できるよう、高知県水防情報システムを活用した情報収集や情報提供及び関係機関等との連携による情報伝達体制や避難警戒体制等の充実を図る。また、関係機関等と連携し、防災訓練への地域住民参加の呼びかけ等を行い、災害時のみならず平常時からの防災意識の向上を図る。

治水機能の適切な維持に支障となる堆積土砂や流木の除去等に努める。また、局所洗掘や土砂の再堆積が懸念される箇所等の重点的な河川巡視やモニタリングを実施し、適切な河川管理に努める。更に、河川管理の視点から適正な森林管理や土砂流出対策を関係機関等に働きかける等、情報共有を行い、連携を深めていく。

南海トラフ地震に備え、液状化等により被災する可能性のある堤防については、地質調査、堤防耐震性能照査のうえで必要に応じて堤防の耐震化を図る。また、水門等河川管理施設についても耐震性能照査を行ったうえで必要に応じて耐震化を図る。

また、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす「最大クラス

の津波」は、施設対応を超過する事象とし、地域住民等の生命を守ることを最優先として、津波防災地域づくり等と一体となって減災を目指す。最大クラスの津波に比べて発生頻度は高く、津波高は低いものの、大きな被害をもたらす「計画津波」に対しては、津波による災害から人命や財産等を守るため、海岸における防御と一体となって河川堤防等により津波災害から防御するものとする。

## イ 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

国分川流域には県下有数の穀倉地帯が広がっており、農業用水として多くの利用がされている。これら流域における水利用実態を把握するとともに、国分川水系の動植物の保護、漁業、景観、流水の清潔の保持等を目指し、関係機関（水利権者等）と調整・連携して既存施設の有効活用、河川水の適正な利用を図り、水利用の合理化を推進しながら、流水の正常な機能を維持するための流量の確保に努めていく。

また、渇水時等緊急時の対応については、渇水被害を最小限に抑えるため、関係機関（利水者等）との協議・調整・連携を図りながら、渇水発生時における情報共有や円滑な取水量調整等に向けた取組を推進していくことに努めていく。

## ウ 河川環境の整備と保全

河川環境の整備と保全に関しては、多様な動植物の生息・生育・繁殖が可能な河川環境や、流域の人々に親しまれ利用されている状況を踏まえ、良好な河川環境の整備と保全に努める。

このため、河川工事等により河川環境に影響を与える場合には、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境への影響の回避・低減に努める。また外来種については、関係機関等と連携しながら、分布拡大や新たな侵入の抑制等に努める。このほか、地域住民が河川を身近に感じられるような周辺環境に調和した河川環境の整備と保全に努める。

水質については、河川の利用状況、沿川流域の水利用状況、現状の環境を考慮し、関係機関等との調整・連携を図りながら、良好な水質の保全に努める。

また、関係機関等と連携しながら、地域住民が河川清掃や河川愛護活動等へ積極的に参画する取組を推進するとともに、環境教育等の充実に努める。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

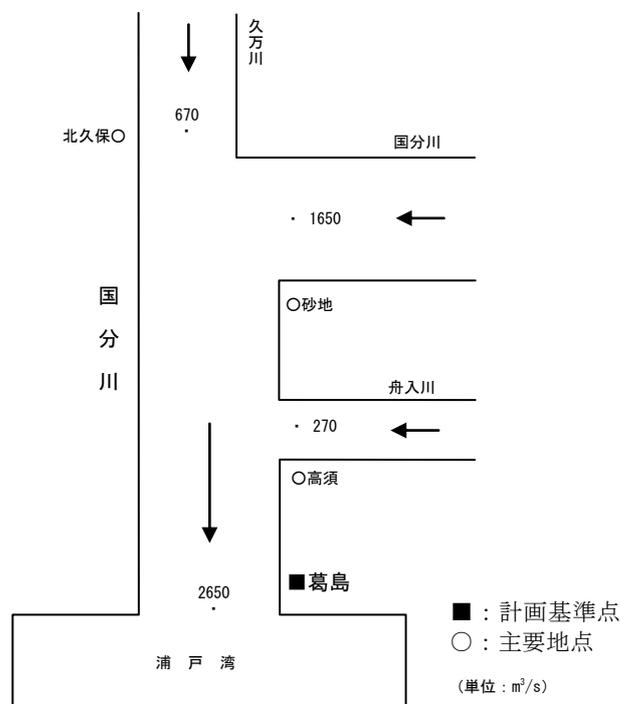
当該水系における基本高水のピーク流量は、既往洪水等について検討した結果、基準地点葛島において $2,650\text{m}^3/\text{s}$ とし、全量を河道へ配分する。

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
国分川	葛島 (河口から0.4km)	$2,650\text{m}^3/\text{s}$	—	$2,650\text{m}^3/\text{s}$

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

国分川における計画高水流量は、葛島地点において $2,650\text{m}^3/\text{s}$ 、砂地地点において $1,650\text{m}^3/\text{s}$ 、北久保地点において $670\text{m}^3/\text{s}$ 、高須地点において $270\text{m}^3/\text{s}$ とする。



国分川計画高水流量図

### (3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点の計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口又は合流点からの距離(km)	計画高潮位 (T. P. m)	川幅 (m)
国分川	砂地	〃 2.30km	3.74	220
	葛島	〃 0.40km	3.54	290
久万川	北久保	国分川合流点から 0.15km	3.72	140
舟入川	高須	〃 0.10km	3.60	80

注) T. P. : 東京湾中等潮位

### (4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、今後、河川流況の把握に努めるとともに、水利用の実態把握、動植物の生息地又は生育地の状況、景観、流水の清潔の保持等に十分配慮した調査・検討を行ったうえで決定するものとする。

